

あの時、
誰かがピアノを
演奏していたんだ

PIANO

A FILM BY VITA MARIA DRYGAS

ピアノ

—ウクライナの尊厳を守る闘い—

監督：ビータ・マリア・ドルィガス

撮影：ユラ・デュネイ、アレクサンダー・チューコ 編集：トーマス・チェセールスキー 音響：フランシスコ・コズラウスキー

配給：アジアンドキュメンタリーズ

<https://ukraine-piano.com/>



ASIAN Documentaries

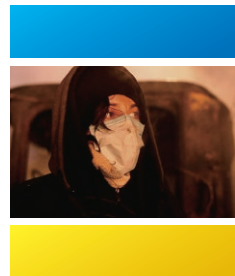


わが身も魂も捧げよう
 我らの自由を得るために
 ウクライナに栄光あれ！

2014年2月、親ロシア派の政権に抗議する市民や学生が機動隊と対峙した「ユーロ・マイダン革命」。この騒乱の真ただ中の首都キーウの独立広場で、音楽院の学生アントネッタ・ミッシェンコがバリケードにされようとしていたピアノを救い出した。厳寒の広場で若きアントネッタが演奏するショパンは人々の心をつかむ。そして世界的に有名な作曲家であるリウドミラ・チチュクや兵士のヴォロディミル、覆面の男ボーダンも演奏に加わっていく。政権側は彼らを「ピアノ過激派」と呼んだ。広場のピアノと4人の英雄は、やがてウクライナの平和革命の象徴となり、同時に権威主義的支配への抵抗となっていく。

親ロシア政権が倒れた2014年、「ユーロ・マイダン革命」

2014年2月、ウクライナの首都キーウの独立広場では、当時の親ロシア派のヤヌコーヴィチ政権に反対した市民らが軍や警察と衝突して多くの死傷者が出ました。ウクライナ人の尊厳を守るための闘いと言われる「ユーロ・マイダン革命」です。この革命により、ヤヌコーヴィチ大統領が失脚し、隣のロシアへ亡命することになりました。この革命によって、新たな政権の発足や、2004年憲法の復活、数ヶ月以内の臨時大統領選挙の成し遂げなど多くの成果をあげ、ウクライナの政治・社会に大きな変化をもたらしました。一方で、親ロシア派のヤヌコーヴィチ大統領の失脚は、ロシアの猛反発を招き、ウクライナ領のクリミア半島のロシア併合、親ロシア派武装勢力によるドンバス地方での戦争勃発、そしてロシアによるウクライナへの侵攻につながっていきました。



ビータ・マリア・ドルィガス (監督)

1984年リトアニア出身。ポーランドで活動する女性ドキュメンタリー映画監督。父親はドキュメンタリー映画監督のマチエイ・ドルィガス。母親はポーランドで脚本家・編集者をしている。ワルシャワ大学でフランス語研究を卒業。ウッチの映画学校の写真部門で学び、ポーランドの名匠アンジェイ・ワイダ監督が設立した映画マスターズスクールを修了。写真家、撮影監督としても活動している。

〔映画祭 / 受賞歴〕

- 2017年 MiradasDoc (スペイン) グランプリ受賞
- 2016年 ORL Eagle Awards (ポーランド) ドキュメンタリー映画部門 最優秀賞
- 2016年 ヴィリニユス国際映画祭 (リトアニア)
- 2016年 パルヌ映画祭 (エストニア)
- 2016年 堤川国際音楽映画祭 (韓国)
- 2016年 モトヴン映画祭 (クロアチア)
- 2015年 クラクフ映画祭 (ポーランド)



監督：ビータ・マリア・ドルィガス 撮影：ユラ・デュネイ、アレクサンダー・チュエコ 編集：トーマス・チェセールスキー 音響：フランシスコ・コズラウスキー
 原題：PIANO / 2015年製作 / 作品時間41分 / 撮影地：ウクライナ / 製作国：ポーランド / 配給：アジアドキュメンタリーズ

2022年11月6日(日)

【上映開始】①10:30 ②13:00 ③15:30
 ※開場は各30分前

【全席指定(税込)】前売り500円/当日800円

【チケット発売日】8月28日(日) 10:00~

主催:七生公会堂(指定管理者 株式会社ケイミックスパブリックビジネス)

【ご予約・お問合せ】七生公会堂 TEL.042-593-2911

〒191-0032 東京都野市三沢3-50-1 FAX.042-593-2917

【開館時間】9:00~21:30 【休館日】毎週月曜日、第二火曜日

【チケットプレイガイド】●ひの煉瓦ホール TEL.042- 585-2011

●オンラインチケットサービス(会館ホームページ内)

<https://www.hino-kaikan.jp/>

※会館公式ホームページから24時間いつでもチケットをお求めいただけます。

七生公会堂

検索

